山口県下関市有冨中尾遺跡出土の中世火葬骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：山口県、中世人骨、火葬骨、土坑墓、保存不良

はじめに

山口県下関市有冨（ありどみ）に所在する有冨中尾（ありどみなかお）遺跡の発掘調査が宅地造成に伴って 2019(令和元) 年度におこなわれ、土坑墓から人骨が出土した。本遺跡は古墳時代の集落跡や中世の墓からなる遺跡で、54 基の墓が検出された。人骨は 7 ヶ所から検出されたが、残存量はきわめて少ない。

山口県での中世人骨の出土例としては、下関市の吉母浜（よしもはま）遺跡 (中橋・他、1985) 出土人骨がもっとも保存状態が良く、数も多い。その他には山口市の瑠璃光寺（るりこうじ）跡 (松下・他、1988b) と古大里（ふるおおり）遺跡 (松下・他、2011)、萩市の萩城跡 (松下、2006b)、下関市の市場遺跡第Ⅱ地区 (松下・他、1992)、吉母堂の下遺跡 (松下、2002a)、旧菊川町の竜王南遺跡 (松下、2002b)、旧豊浦町の汐汲（しおくみ）遺跡 (松下・他、1986)、高野遺跡 (松下、1999a)、吉永遺跡Ⅲ - 西地区 (松下、1999b)、吉永遺跡Ⅲ - 東地区 (松下、1999c)、川棚条里跡（松下、2000）、中ノ浜遺跡 (松下、2006a、松下・他、2016、2017)、旧豊北町の中平尾（なかひらお）遺跡 (松下・他、2003a)、神田口（こうだぐち）遺跡 (松下、2003b)、東正寺（とうしょうじ）遺跡 (松下、2004)、寺ヶ浴（てらがき）遺跡 (松下、2005a)、波原（はばら）遺跡 (松下、2007) の他に土井ヶ浜遺跡の第 7 次調査 (松下・他、1983a)、第 14 次調査 (松下、1996)、第 16 次調査 (松下、1998) でも中世人骨が出土している。また、下松市の梅ノ木原遺跡 (松下・他、1987)、防府市の玉祖（たまのおや）遺跡 (松下・他、1983b)、原遺跡 (松下、2001a)、上り熊遺跡 (松下・他、2008、2009、2010)、宇部市の東隆寺経塚 (松下・他、1988c) と末信遺跡 (松下・他、1988a)、美祢市の植畠遺跡 (松下、1997)(旧美東町)、柳井市の向田（むかいだ）遺跡 (松下、2005b) と吉毛（よしげ）遺跡 (松下・他、2011)、長門市三隅町湯免（ゆめん）遺跡 (松下、2001b)、萩市見島 (牛島・他、1960)、岩国市の中津居館跡 (松下・他、2012) などからの出土例がある。このうち東隆寺経塚、梅ノ木原遺跡、吉母堂の下遺跡、吉永 (Ⅲ - 東地区) 遺跡、竜王南遺跡から出土したのは火葬骨であった。保存状態が良好だったのは吉母浜、土井ヶ浜、汐汲の各遺跡から出土した人骨で、いずれも響灘沿岸の砂丘から出土したものである。

今回、本遺跡から出土した中世人骨はすべて火葬骨であった。人骨の残存量はきわめて少なく、保存状態も悪いものであったが、人骨を解剖学的に精査し、人類学的観察をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資　料

本遺跡の 7 ヶ所から人骨が検出された（表 1、2）。1 体（LG005 人骨）は火を受けていないが、残りの 6 体は火葬骨である。7 体とも成人骨で、未成人骨は存在しない。7 体とも残存量が少ないうえに、性別や年齢を推測できる部位が残存していないことから、7 体の性別と 6 体の年齢は不明である。年齢区分を表 3 に示した。

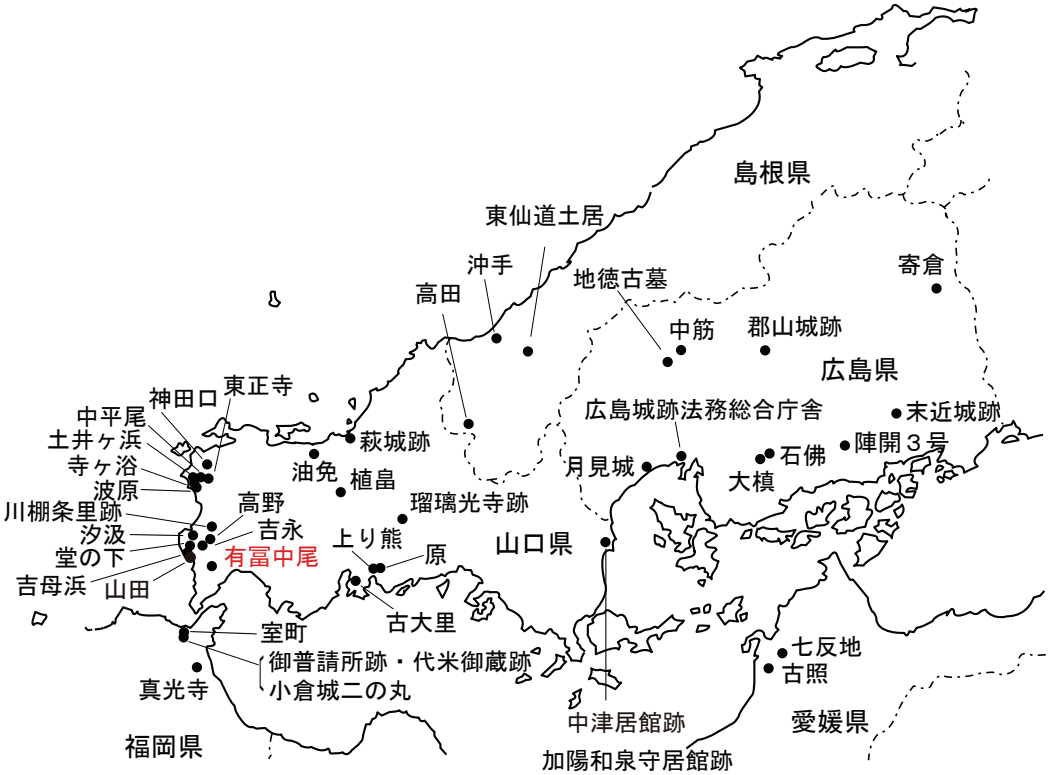

図１．遺跡の位置（1/25,000）

(Fig.1 Location of the Aridominakao site, Shimonoseki City, yamaguchi Prefecture)

7 体のうちの 6 体の火葬骨は、考古学的所見より、中世に属する人骨と推測されているが、非火葬骨は墓坑上部から検出されており、中世よりも新しい時代（近世）の人骨の可能性が強い。

なお、撹乱坑から検出されたのはイヌの後頭骨である。

表 1　資料数（Table 1. Number of materials)

成　人			幼小児	合　計
男性	女性	不明		
0	0	7	0	7

表 2　出土人骨一覧（Table 2. List of skeletons)

遺構番号（人骨番号）	性別	年齢	備　　考
LS008 ～ 011	不明	不明	火葬骨　1g
LG005	不明	不明	非火葬骨
LG022	不明	不明	火葬骨　5g
LG023	不明	老年	火葬骨　65g
LG029	不明	不明	火葬骨　97g
LG031	不明	不明	火葬骨　29g、墓坑壁面被熱
LG032	不明	不明	火葬骨　骨粉
撹乱坑	―	―	イヌの後頭骨

表 3　年齢区分　(Table 3. Division of age)

	年齢区分	年　　齢
未成人	乳児	1 歳未満
	幼児	1 歳～ 5 歳　(第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6 歳～ 15 歳　(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16 歳～ 20 歳　(蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21 歳～ 39 歳　(40 歳未満)
	熟年	40 歳～ 59 歳　(60 歳未満)
	老年	60 歳以上

注)成年という用語については土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査報告書 (松下、1996) を参照されたい。

所　見

Ⅰ　人骨の検出状況と埋葬姿勢

ＬＧ００５人骨

土坑墓の上層から検出された。土坑墓とは関係のない人骨と思われ、おそらく近世以降の人骨と推測される。中世墓が廃棄されたあとに、埋葬がおこなわれ、その後撹乱を受けたような出土状況であっ

た。発掘時に骨が削平、圧平されており、大腿骨体と骨種不明の骨が残存していたにすぎない。従って、葬位などは不明である。

Ⅱ　人骨の形質

ＬＳ００８～０１１人骨（性別・年齢不明）(火葬骨)

四肢骨の一部とみられる小骨片が２点残存していたにすぎない。残存量は重量にしてわずか 1g である。性別・年齢は不明である。

ＬＧ００５人骨 (性別・年齢不明)（非火葬骨）

本人骨は火を受けていない。残存していたのは大腿骨と骨種不明の人骨のみである。

１．大腿骨

左右不明の骨体の一部が残存していた。骨壁（緻密質）はやや薄い。保存状態が悪く、形態的特徴は不明である。

２．性別・年齢

大腿骨体の遺存部分が少なく、保存状態も悪いので、性別・年齢は不明であるが、成人骨である。

ＬＧ０２２人骨（性別・年齢不明）（火葬骨）

四肢骨の細片が少量検出されたにすぎない。性別・年齢とも不明である。骨の残存量は少なく、重量にしてわずか約５ｇである。

本骨片は墓坑床面直上から検出された炭化物の堆積中に含まれていた。土師器坏 1 点と土師器皿 1 点が副葬されていた。

ＬＧ０２３人骨（性別不明・老年）(火葬骨)

頭蓋片と上腕骨、四肢骨の細片が確認できた。骨は火熱を受けたことによる収縮と表面には亀裂が入り変形がみられることから､軟部組織が残存した状態で火葬されたと想定される。残存量は少なく、重量は 65g である。また、重複している部位が認められないことから、1 体分と考えられる。

墓坑内には角礫が入っており、土師器坏 5 点と土師器皿 1 点のほかに銭 4 枚が副葬されていた。

１．頭蓋

後頭骨の一部で左側後頭乳突縫合部と右側側頭骨の外耳道上部、左右の頭頂骨片の矢状縫合部の一部が確認できたが、残存量は少量で、保存状態も悪い。観察ができた矢状縫合は内外両板とも癒合している。下顎体中央部のごく一部が残存していた。下顎体の径は小さかったと思われる。

２．歯

下顎骨には歯根が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／／／／／／②①	① ２／／／／／／

〔○ : 歯槽開存　／：不明 (破損)、番号は歯種〕

〔1 : 中切歯、２：側切歯、３：犬歯、４：第一小臼歯、５：第二小臼歯、６：第一大臼歯、７：第二大臼歯、８：第三大臼歯〕

歯根が残っていたのは下顎左側の側切歯である。

３．上腕骨

左右不明の骨体が残存していた。亀裂が入っており、保存状態はきわめて悪く、形態的特徴は不明である。

４．性別・年齢

上腕骨体が小さいことから女性の可能性があるが、性別は不明としておきたい。年齢は、矢状縫合の一部しか観察できなかったが、内外両板が癒合していることから推測すれば老年と考えられる。

ＬＧ０２９人骨（性別・年齢不明）(火葬骨)

今回検出された火葬骨のなかではもっとも残存量が多く、尺骨体、大腿骨体、四肢骨片が確認できたが、頭蓋は存在しない。骨は火熱を受けたことによる収縮と、表面には亀裂が入り変形がみられることから、軟部組織が残存した状態で火葬されたと想定される。残存量は重量にして 97g である。また、重複する部位は認められないことから、１体分と考えてよさそうである。

１．尺骨

左右不明の尺骨体と推測される骨体が残存していた。表面には熱による亀裂や変形、収縮がみられる。

２．大腿骨

左右の別を判別することができない骨体が残存していた。骨体はかなり小さかったようである。表面には熱による亀裂や変形、収縮がみられる。

３．性別・年齢

年齢は不明である。大腿骨体が細いことから女性の可能性があるが、変形が著しいことから、性別は不明としておきたい。

ＬＧ０３１人骨（性別・年齢不明）（火葬骨）

約 3cm 大ほどの後頭骨片などの頭蓋片が数点と、四肢骨の細片が残存していた。頭蓋片のなかには部位不明の縫合のごく一部を確認することができた。縫合の内板は癒合しており、外板は開離している。骨には被熱による収縮と亀裂や変形がみられることから、軟部組織が残存した状態で火葬されたと想定される。性別・年齢とも推定できる部位が残存していないので不明である。骨の残存量は少なく、重量にして約 29 g である。

なお、墓坑壁面に被熱の跡がみられ、床面には大量の炭化物が堆積していた。土師器坏破片２点、炭化した木製玉類が副葬されており、炭化した繊維も残存していた。

ＬＧ０３２人骨（性別・年齢不明）(火葬骨)

土の中に 9mm ほどの骨の痕跡が確認できた。火葬骨と思われる。ほぼ骨粉状態で骨種や形態的特徴は不明である。性別・年齢とも推定できる部位が残存していないので不明である。重量は計量できるほどもない。土師器坏２点が副葬されていた。

考　察

本遺跡からは 54 基の墓坑が検出されている。遺跡内の 7 ヶ所から人骨が検出されたが、そのうちの 1 ヶ所から検出されたのは非火葬骨（LG005）で、出土状況から近世以降の人骨と推測される。残り 6 ヶ所から検出された骨は火葬骨であった。6 ヶ所のうち 1 ヶ所（LS008 ～ 011）は墓坑から検出されたとは考えがたいので、墓坑から検出された火葬骨は 5 ヶ所である。5 基の墓坑のうち 4 基からは副葬品・供献土器が出土している。

今回の調査では中世墓からは火葬骨しか検出されなかったが、火葬されていない遺体も埋葬されていたのかは、人骨が残存していなかったので、明らかではない。検出された中世火葬骨はわずか 5 体にすぎない。墓坑の数に比して火葬骨の数（体数）が少なすぎる。骨は火を受けると強固になり、残りやすくなるので、火葬骨が埋納されていたとすれば、残存していてもおかしくないが、今回は情報が少なすぎてこれ以上の詮索や検討ができないので、今回検出された火葬骨のみで、墓の様相を検討してみた。

焼骨が残存していた墓坑でも量が著しく少ないことから、筆者らは、古代・中世では、分骨された可能性が高いことを以前から指摘してきた。古代・中世の遺体の処理方法として、火葬しないで埋葬する方法のほかに火葬する方法が存在する。わざわざ手間のかかる火葬にしたのはいくつかの理由が考えられる。

火葬した理由としては、①宗教上の理由（火葬をする宗派や職種）、②感染症など病気の拡大防止、③特定の社会的階層や身分、役職でおこなわれる葬法、④分骨など移動しやすい状態にするため、などが想起される。古代･中世では火葬しない集団と火葬する集団が認められることがわかっているが、火葬骨の場合は不思議なことに圧倒的多数の例で、残存量が少ない。

その理由としては次の３つのことが考えられる。ひとつめは、火葬後の遺骨の処理のしかたに関係することで、遺骨を複数の場所に分骨して安置（埋葬、埋納）したという考えである。その場合は持ち運びやすいことが前提になる。なまの骨は大きさと重量が移動の障害になることはいうまでもない。分骨する際、骨の種類が選択された可能性があるので、どの骨を納めたかを 1 例ずつ人類学的観察を丹念に続けていき、例数を増やすことによって、その傾向を推測することができるかもしれない。ちなみに LG029 では今回検出された火葬骨のなかではもっとも残存量が多かったにもかかわらず頭蓋がまったく含まれていなかった。頭蓋は意識的に取り上げられてしまったのか、そもそも頭蓋は別の場所に収められ、この墓には当初から入れられなかったのかもしれない。

２つめの理由は、火葬した骨については、そもそも埋納するのは遺骨のごく一部（少量）でよかったという考えである。この場合は初めから少量の骨しか埋納しなかったことになる。３つめの理由は、墓が改葬され、大部分の遺骨が取り上げられたが、ごく一部が残ったという解釈である。この場合、現場で改葬された痕跡を確認できるかが決め手になる。墓坑の中に墓石として使用された大きめの石塊などが投棄された痕跡があれば、改葬され墓が遺棄された可能性がある。この３つの理由なら火葬骨の量が少ないことの理由を説明することができそうである。

では、有冨中尾遺跡の場合はどうであろうか。5 基のうち 2 基（LG023 と LG029）では墓坑内から角礫が検出されている。この角礫が本来の墓坑に伴っているのか、投棄されたものかの検討が必要

であろう。残りの 3 基のうちの 2 基（LG032 と LG022）は火葬骨の残存量が極端に少ないので、解釈ができない。最後の 1 基（LG031）では墓坑壁面に被熱の跡がみられ、床面には大量の炭化物が堆積していたことから、ここで遺体が火葬されたのは確実である。遺体が火葬されたあと、骨は別の場所に埋納されたと思われ、この遺構はほかの 4 基の墓坑とは性格が異なり、火葬所と思われる。検出された少量の焼骨は取り残された骨片であろう。

このように有冨中尾遺跡の中世墓地の中には、人骨の残存様態から、埋葬時の状態を示すものや、時間が経過している状態のもの、機能が異なっている墓坑（遺構）が存在するようである。また、時期によって、あるいは墓を営んでいた血縁集団間によって、葬法に若干の相違があったことも推測される。

要　約

山口県下関市有冨に所在する有冨中尾遺跡の発掘調査が 2019 年度におこなわれ、土坑墓から人骨が出土した。本遺跡は古墳時代の集落跡や中世の墓からなる遺跡で 54 基の墓が検出された。火葬骨と非火葬骨とが検出されたが、いずれも残存量は少なく、保存状態も悪いものであったが、人類学的観察をおこない、以下の結果得た。

1. 人骨は 7 ヶ所から検出された。1 ヶ所は墓坑から検出されたとは言えない状況であったので、墓坑から検出されたのは 6 体であるが、1 体（LG005）は火葬されていない骨で、残りの 5 体は火葬骨である。
2. 1 体の非火葬骨は近世以降の人骨と思われるが、残りの 6 体は考古学的所見から中世に属する火葬骨である。なお、5 基の墓坑のうち 4 基から副葬品・供献土器が出土している。
3. 7 体の性別と 6 体の年齢は不明であるが、すべて成人骨である。
4. 火葬骨の残存量は、計量できない骨粉状のものもあり（LG032）、最も多いもの (LG029) で 97g しかなく、残存量はかなり少ない。
5. 火葬骨が検出された 5 基の墓坑の内、墓坑内に角礫が存在したものが 2 基（LG032、LG022）存在する。
6. 1 基（LG032）では墓坑壁面に被熱の跡がみられ、床面には大量の炭化物が堆積していたことから、ここで遺体が火葬に付されている。
7. 残存量がもっとも多いにもかかわらず LG029 では頭蓋がまったく存在していなかった。改葬によって頭蓋が取り上げられたか、あるいは頭蓋は別の場所に分骨され、当初から頭蓋は収められなかったのかもしれない。
8. 古代・中世での遺体の処理のしかたには、火葬しないで埋葬する方法と火葬して焼骨を埋納する方法とが存在するが、墓や蔵骨器から検出される火葬骨は量が極端に少ない。その理由としては、①分骨がおこなわれた（分骨するために火葬した。分骨なので、量が少ない）、②火葬した骨は少量を埋葬すればよかった（多くは要らない）、③墓の改葬によって人骨が取り上げられたが、一部取り残した、という 3 つの理由が想定できる。今後、それぞれの遺構がどの仮説に該当可能かの検討をおこなっていく必要がある。また、同時に人骨の検出状況や遺構の状況には多様性が認められ

るケースが予想される。その多様性は、埋葬時の状態や時間が経過している状態を示していたり、機能が異なっていることを示唆しているのかもしれない。また、時期によって、あるいは墓を営んでいた血縁集団間によって、葬法に若干の相違があったことも推測できるかもしれない。

≪参考文献≫

1. 松下真実、2007：山口県下関市波原遺跡出土の中世幼小児歯冠。波原遺跡・森広遺跡・片山遺跡 (下関市文化財調査報告 25)：125-130.
2. 松下真実・他、2011：山口県柳井市吉毛遺跡出土の中・近世人骨。山口考古第 31 号：49-88.
3. 松下真実・他、2017：下関市中ノ浜遺跡出土の中世人骨。中ノ浜遺跡 (山口県埋蔵文化財センター調査報告第 99 集)：31-48.
4. 松下孝幸・他、1983a：山口県豊浦郡豊北町土井ケ浜遺跡出土の人骨。土井ケ浜遺跡第 7 次発掘調査概報 (豊北町埋蔵文化財調査報告 2)：19-30.
5. 松下孝幸・他、1983b：山口県防府市玉祖遺跡出土の平安・中世人骨。玉祖遺跡・西小路遺跡 (山口県埋蔵文化財調査報告第 70 集)：147-148.
6. 松下孝幸・他、1986：山口県豊浦町汐汲遺跡出土の古墳時代・中世人骨。汐汲遺跡 (豊浦町埋蔵文化財調査報告第 7 集)：75-102.
7. 松下孝幸・他、1987：山口県下松市梅ノ木原遺跡出土の火葬骨。梅ノ木原遺跡 (山口県埋蔵文化財調査報告第 98 集)：107-112.
8. 松下孝幸・他、1988a：宇部市末信遺跡出土の中世人骨。末信遺跡 (宇部市文化財資料第 10 集)：20-25.
9. 松下孝幸・他、1988b：山口市瑠璃光寺遺跡出土の中世人骨。瑠璃光寺跡遺跡－中世墳墓の調査。(山口市埋蔵文化財調査報告書第 28 集)：397-436.
10. 松下孝幸・他、1988c：東隆寺経塚出土の人骨。東隆寺一字一石経塚 (伝南嶺和尚墓)(宇部市文化財資料第 9 集)：33-36.
11. 松下孝幸・他、1992：山口県下関市市場遺跡第Ⅱ地区出土の中世人骨。市場遺跡Ⅱ・宮添遺跡 (山口県埋蔵文化財調査報告第 149 集)：23-25.
12. 松下孝幸、1996：土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第 14 次発掘調査報告書 (山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第 12 集)：24-50.
13. 松下孝幸、1997：山口県美東町植畠遺跡出土の中世人骨。植畠遺跡 (山口県埋蔵文化財調査報告第 183 集)：38-40.
14. 松下孝幸、1998：土井ヶ浜遺跡第 16 次発掘調査出土の弥生時代・中世人骨。土井ヶ浜遺跡第 16 次発掘調査報告書 (山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第 14 集)：付 1-39.
15. 松下孝幸、1999a：山口県豊浦町高野遺跡出土の中世人骨。高野遺跡 (南地区)(平成 7・8・9 年度県営ほ場整備事　業にともなう発掘調査報告書)（豊浦町の文化財第 15 集）：226-233.
16. 松下孝幸、1999b：山口県豊浦町吉永遺跡出土の中世人骨。吉永遺跡 (Ⅲ - 西地区)(平成 10 年度県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書)（豊浦町の文化財第 16 集）：21-25.
17. 松下孝幸、1999c：山口県豊浦町吉永遺跡出土の中世火葬人骨。吉永遺跡 (Ⅲ－東地区)(平成 10 年度県営ほ場整備業に伴う発掘調査報告)：51-54.
18. 松下孝幸、2000：山口県豊浦町川棚条里跡出土の中世人骨。川棚条里跡 1 (大浦・台地区)(平成 11 年度経営ほ場整備事業に伴う発掘調査概報)（豊浦町の文化財第 17 集）：64-68.
19. 松下孝幸、2001a：山口県防府市原遺跡出土の中世人骨。原遺跡 (山口県埋蔵文化財調査センター調査報告第 23 集)：41-56.
20. 松下孝幸、2001b：山口県三隅町湯免遺跡出土の中世人歯冠。湯免遺跡 (三隅町埋蔵文化財調査報告第 1 集)：

付篇
21. 松下孝幸、2002a：山口県下関市吉母堂の下遺跡出土の中世火葬骨。吉母堂の下遺跡 (下関市埋蔵文化財調査報告書 61)：10-11.
22. 松下孝幸、2002b：山口県菊川町竜王南遺跡出土の中世火葬骨。竜王南遺跡 (山口県埋蔵文化財センター調査報告第 31 集)：69-74.
23. 松下孝幸・他、2003a：山口県豊北町中平尾遺跡出土の中世人骨。中平尾遺跡・上今宮遺跡 (山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第 23 集)：160-163.
24. 松下孝幸、2003b：山口県豊北町神田口遺跡出土の中世人骨。土井遺跡群　二刀遺跡・丸山遺跡・神田口遺跡 (山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第 24 集)：85-87.
25. 松下孝幸、2004：山口県豊北町東正寺遺跡出土の中世人骨。東正寺遺跡・浴ノ迫遺跡 (山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第 25 集)：29-31.
26. 松下孝幸、2005a：山口県豊北町寺ヶ浴遺跡出土の中世人骨。土井ヶ浜遺跡周辺遺跡群　寺ヶ浴遺跡　広田遺跡　磯地遺跡 (下関市文化財調査報告書 9)(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第 38 集)：138-144.
27. 松下孝幸、2005b：山口県柳井市向田遺跡出土の中・近世人骨。陶塤第 18 号 (山口県埋蔵文化財センター年報－平成 16 年度－)：63-100.
28. 松下孝幸、2006a：山口県下関市中ノ浜遺跡出土の弥生・中世・近世人骨。山口考古第 26 号：51-80.
29. 松下孝幸、2006b：萩城跡 (外堀地区) 出土の中世・近世人骨。萩城跡Ⅲ (山口県埋蔵文化財センター調査報告第 52 集)：253-274.
30. 松下孝幸・他、2008：防府市上り熊遺跡出土の中世人骨。上り熊遺跡Ⅰ (山口県埋蔵文化財センター調査報告第 66 集)：138-146.
31. 松下孝幸・他、2009：防府市上り熊遺跡Ⅱ地区出土の中世人骨。上り熊遺跡Ⅱ (山口県埋蔵文化財センター調査報告第 70 集)：131-136.
32. 松下孝幸・他、2010：防府市上り熊遺跡Ⅲ地区出土の中世人骨。上り熊遺跡Ⅲ（山口県埋蔵文化財センター調査報告第 73 集)：105-120.
33. 松下孝幸・他、2011：山口市古大里遺跡出土の中世人骨。古大里遺跡 (山口県埋蔵文化財センター調査報告第 75 集)：69-74.
34. 松下孝幸・他、2012：中津居館跡出土の中世人骨。中津居館跡 (岩国市埋蔵文化財調査報告第 1 集)：108-116.
35. 松下孝幸・他、2016：中世人骨。中ノ浜遺跡（山口県埋蔵文化財センター調査報告第 96 集）：41-46.
36. 牛島陽一・他、1960：山口県阿武郡見島村出土の中世時代の人骨について。人類学研究、 7 (3 ～ 4)：52-56.
37. 中橋孝博・他、1985：人骨 (山口県下関市吉母浜遺跡出土人骨)。吉母浜遺跡：154-225.

＊ Takayuki　MATSUSHITA〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕
＊＊ Masami　MATSUSHITA〔特定非営利活動法人・人類学研究機構〕

四肢骨 (The limb bones)

有冨中尾　LG008 ～ 011（性別・年齢不明）

(The cremated skeleton LG008 ～ 011 from the Aridominakao site,sex and age are unknown)

四肢骨 (The limb bones)

有冨中尾　LG022（性別・年齢不明）

(The cremated skeleton No.155 from the Aridominakao site,sex and age are unknown)

頭蓋 (The skull)

上腕骨 (Humeri)

有冨中尾　LG023（性別・老年）

(The cremated skeleton LG023 from the Aridominakao site,senile unknown sex)

四肢骨 (The limb bones)

有冨中尾　LG029（性別・年齢不明）

(The cremated skeleton

No.164 from the Aridominakao site,sex and age are unknown)

頭蓋 (The skull)

有冨中尾　LG031（性別・年齢不明）

(The cremated skeleton LG031 from the Aridominakao site,sex and age are unknown)

骨粉 (The bone powder)

有冨中尾　LG032（性別・年齢不明）

(The cremated bone powder LG032 from the Aridominakao site,sex and age are unknown)